

支 部 便 り



東北支部
支部長
吉澤 誠

東北支部では、平成29年度の「東北支部総会ならびに懇親会」を平成30年3月15日(木)に、青葉山の電気・情報系1号館にて開催いたしました。総会では、春浪隆夫支部長の御挨拶の後、平成29年度事業報告ならびに会計報告が承認されました。次いで、平成30年度の支部役員として、支部長に私(吉澤誠)、幹事に伊藤健洋先生と北形元先生が選出された後、平成30年度の事業計画および予算案が承認されました。総会に引き続き懇親会が開催され、多数の同窓生のスピーチがあり、和やかな雰囲気の中で会員の親交を深めることができました。特に、現役学生と社会でご活躍中の諸先輩方が、年代を超えて交

流していたことが印象的でした。

平成30年3月27日(火)には、平成29年度の「卒業祝賀会ならびに同窓会新入会員歓迎会」が、約270名の出席のもと青葉山の電気・情報系101大講義室において開催されました。卒業祝賀会では、冒頭に電気・情報系運営委員長の川又政征先生と電気通信研究所所長の 大野英男先生からの祝辞を賜り、虫明康人名誉教授の御発声による乾杯で卒業・修了を祝いました。歓談の後には、成績優秀学生を表彰し讃え、同窓会会長の小野寺正様と東北支部長の春浪隆夫様から同窓会入会歓迎の御挨拶を賜りました。最後に、学部卒業生・大学院博士課程前期・後期修了生の代表3名から答辞があり、伊藤彰則先生の万歳三唱で新入会員の門出を祝いました。

今後とも、母校のある仙台に拠点を置く支部として、同窓会活動のより一層の充実を目指していきたいと考えております。引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。



東京支部
支部長
渋谷昭宏

東京支部では、東北大学電気・通信・電子・情報同窓会総会および東京支部総会の開催と若手交流会の開催を軸に活動を行っています。今年度の総会は9月7日に学士会館で開催し105名の方に参加を頂きました。昨年度から同窓会会長として小野寺正様(電昭45、KDDI(株)、副会長には根元義章様(通昭43、東北大学名誉教授)が就任されており、当日は小野寺正 会長より大野英男 前電気通信研究所所長の総長就任の祝辞と同窓会活性化に対する会員の皆様への期待をご挨拶を頂きました。電気通信研究所の塩入諭 新所長、電気・情報系運営委員長 伊藤彰則 教授からは、大学の近況や新たな取り組みについてご紹介がありました。支部総会議事については、渋谷昭宏 東京支部長より2017年度事業報告・会計報告、および2018年度事業計画・会計案の説明を行い原案通り承認されました。2019年度東京支部役員は、支部長にソニー(株)佐藤裕之氏(通昭57)、副支部長に(株)日立製作所の酒井瑞洋氏(子平02)をはじめとする新役員案が原案通り承認されました。議事終了後、(一財)衛星測位利用推進センター(SPAC)の三神泉 専務理事(東北工学部機械系出身)を講師にお迎えし「準天頂衛星「みちびき」が宇宙から支える未

来のG空間社会」の演題で特別講演を開催しました。準天頂衛星「みちびき」の軌道、「みちびき」独自のサービスであるcm級測位の原理、精度検証実験の現状と課題、および高精度測位技術が生み出す新たなサービスについて大変分かりやすい講演を頂きました。総会後の懇親会では、佐藤裕之 副支部長の開会挨拶に続き、小野寺正 会長の挨拶の後、根元義章 副会長の発声で乾杯を行い歓談に移りました。今年度から、前年度に定年退職された先生をお招きする取り組みを始めましたが、出席頂いた村岡裕明 先生、梅村晋一郎 先生のご挨拶と近況報告に会場が大いに盛り上がりました。最後に、植松裕 次期東京支部副幹事補佐(酒井瑞洋 次期東京支部副支部長代理)の閉会挨拶により盛況のうちに懇親会を終了しました。若手交流会は12月に実施しています。若手同窓生の人材育成、企業の枠を超えた横のネットワーク作りを目的に始めたもので、今年度は12月6日に学士会館で開催し若手同窓生7名を中心に19名が出席しました。若手同窓生が簡単な自己紹介と共通テーマ「働き方改革に向けた課題意識と決意」を発表した後、全員で活発な意見交換を行い有意義な時間を共有しました。同窓会本部と合同開催している役員会では、同窓会のさらなる活性化に向けた施策を議論しており、幹事ローテーション会社の定期連絡会開催など具体的な活動に展開していく所存です。引き続き関係各位のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



東海支部
支部長
石井 隆一

東海支部では、去る9月8日(土)に第42回「東北大学電気系同窓会東海支部総会」を愛知県豊田市内のホテルフォレストにて開催いたしました。仙台より、ご来賓として東北大学大学院工学研究科通信工学専攻の伊藤彰則教授をお迎えし、支部会員42名の出席を得て、盛大な会合となりました。

当日は、総会に先立ちトヨタ会館(愛知県豊田市)の見学を行いました。トヨタのハイブリッド技術をコアとしたエコカー開発や、事故を起こさないクルマの実現を目指した取り組み等を紹介頂き、様々な角度からトヨタのクルマへの思いを知ることができました。また、最新のトヨタ車を間近で見ると触ったり、生産工場でのものづくりを映像や模型で間近に見ることができました。

さて、総会は常任幹事のMHIエアロスペースシステムズ(株)の清水将一氏(電昭54)の開会の辞で始まり、支部長の挨拶と前支部長の名古屋工業大学 名誉教授 池田 哲夫先生(通昭36)の乾杯音頭で宴に移りました。

引き続き、ご来賓の伊藤彰則先生から研究概要や母校の近況をご講演いただきました。企業と大学が未来を創造するための出会いと協働の場として、復興記念教育研究未来館を建設予定であることや、通研公開・仙台フォーラム等のイベントが開催予定であることをご説明頂きました。仙台の状況を知る機会は滅多に無いため、出席者一同大いに盛り上がりました。

また、池田哲夫先生からは、東北大学電気系の旧教官のご紹介を頂きました。大正時代から昭和後期まで、八木秀次先生に始まり総勢40名もの東北大学教官について、研究内容や教官にまつわるエピソードを説明頂きました。ほとんどの人が知らないような大昔の先生であったこともあり、出席者全員が興味津々に聞いておりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、次回幹事となる三菱重工業(株)吉住直彦氏(電平06)から次回総会への決意を表明していただき、盛会を誓い合いました。会の最後は恒例の「青葉もゆるこのみちのく」を合唱した後、常任幹事の森正和先生(電昭48)による閉会の辞で締めくくりました。

以上、電気系同窓会会員皆様のご健勝を祈念しつつ、東海支部の報告といたします。

退職教授のご紹介



梅村晋一郎先生
ご退職

医工学研究科医工学専攻超音波ナノ医工学分野(工学研究科通信工学専攻音波物理工学分野兼担)の教授として研究と教育に尽力されました梅村晋一郎先生が、平成30年3月31日をもって定年により本学を退職されました。

先生は、昭和27年6月に大阪府でお生まれになりました。昭和50年3月に東京大学工学部物理工学科を卒業され、その後同大学大学院工学系研究科物理工学専攻に進学され、昭和55年3月に工学博士の学位を取得されました。同年4月から日立製作所の中央研究所と基礎研究所において医用超音波の研究開発に従事された後、平成17年4月から京都大学医学部にて教授として教育研究に従事されました。そして、平成19年1月に教授として東北大学大学院工学研究科に着任され、平成20年4月より同大学大学院医工学研究科に配置換えされました。

先生の専門分野は医用超音波ですが、東北大学に着

任後に特に力を入れられたのが気泡援用超音波治療です。超音波治療は骨折治療に代表される低強度超音波治療と、がん治療に代表される高強度超音波治療に大別されます。超音波がん治療では、体外で発生させた周波数1 MHz程度の超音波を体内のがんに集束させ、その高いエネルギー密度によってがんを加熱凝固させるなどして治療します。このような超音波は強力集束超音波(HIFU: high-intensity focused ultrasound)と呼ばれます。先生は日立製作所在籍時から現在に至るまでHIFU治療の最先端を走り続けていらっしゃいます。その研究の過程においては多くの論文賞を受賞され、2000年にIEEEフェロー、2009年にアメリカ音響学会フェローの称号を授与されました。さらに2010年には国際超音波治療学会よりThe William and Francis Fry Honorary Fellowship Award(超音波治療の研究開発において卓越する貢献をした個人を1年に1人選び授与する生涯功労賞)を受賞されました。この表彰に当たり、当時の国際超音波治療学会長は「彼は全てを持っている」と評価されていました。先生は全てにおいて並外れた探求欲をお持ちであり、幅広い分野で学術界および産業界に貢献されています。